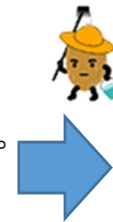


水田に雪がなくなり、水もやや温み、農作業がいよいよ本格化します。
 気象庁の2週間気温予報では、気温が高くなると予想されているため、浸漬期間が例年より短くなる
 可能性がありますので、種もみの状況を確認しながら浸漬を行きましょう。
 また、高温になるとクモの葉カビや苗立枯病が発生しやすくなるため、ハウス・苗代ともに水分管理、
 温度管理に気を配りましょう。



1. 催芽

- 温度は30～32℃で16～20時間程度行いましょう（ハト胸程度を目安にしましょう）。
- 温度が40℃以上になると、発芽能力が低下するので注意しましょう。



2. 播種

1箱あたり催芽粒で120g程度にしましょう（厚播きをすると徒長苗やムレ苗などの原因となります）。

3. 床土作り → 人工培土は乾燥しやすいため、水管理には注意しましょう。

資材名	山土の場合	人工培土の場合
サイコー11号 (肥料)	20g/箱 (5kgで250枚分)	肥料分が入っているため不要 ※無肥料培土の場合は山土と同様
ナエファイン粉剤 (農薬)	8g/箱 (1kgで125枚分)	6g/箱 (1kgで166枚分)
ナエファイン フロアブル(農薬)	播種時灌注2,000倍(1ℓ/箱) 緑化期1,000倍(500cc/箱)	

4. 置床

置床は育苗箱の底が密着するように均平にしましょう。また、置床の硬さは「耳たぶ」程度に調整しましょう。

5. 出芽

- ハウス育苗では水分保持と保温のためシルバーポリトウなどで平張り被覆し、8割程度（4～6日）の出芽を確認したら速やかに取り除き、日光を当てましょう。
- 必ず温度計を設置し、播種から5日間は施設内の日中温度が35℃以上になる場合は換気を行い、夜間温度が10℃以下にならないよう、保温に努めましょう。

◎ シルバーポリトウをはぐ適期



× 剥ぎ遅れ・伸ばしすぎ



シルバーポリトウを剥く前でも
ハウス内が35℃を越える場合は、
換気しよう！



◎健苗育成のポイント！◎

(1) 播種後15～20日に生育が不安定になります！

苗は播種後2週間頃に種もみの養分を使い切り、根から吸収する養分のみで体を維持し始めますが、この頃生育が不安定になり、苗立枯病にもかかりやすくなります。そのため、育苗期間中で最も温度管理に気を使い、苗にストレスをかけないようにしましょう！

(2) 苗代は過湿、ハウスは乾燥に注意！

苗代は雨が多くなると水分過多になりがちです。そのため、排水不良にならないよう排水路を整備しておきましょう！また、ハウスは温度が上がりやすく乾燥しやすいことから、苗箱の水分をこまめにチェックし乾燥しすぎないように注意しましょう！

